

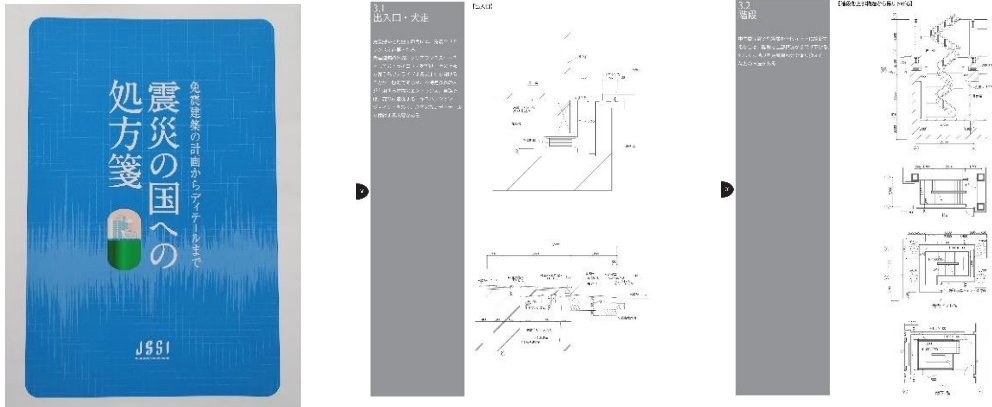
JSSI 新刊のご案内

以下の2冊です。

1. 震災の国への処方箋 -免震建築の計画からディテールまで-
2. 免震建物の設備標準

図書購入の際は、[\[図書購入申込書\] \(Excel 2 ページ\)](#)に必要事項をご記入の上、当協会宛に [E-mail](#) でお申し込み下さい。価格は税込み。送料は別途(会員は国内送付に限り無料)。支払い方法は郵便振替、銀行振り込み、カード(VISA・MASTER)支払いの3種類となります。ご購入は、協会以外に、紀伊國屋書店、amazon.co.jpからも可能です。

1. 震災の国への処方箋-免震建築の計画からディテールまで-



震災の国への処方箋

-免震建築の計画からディテールまで-

免震建築の計画・設計・ディテールなど集積した設計者のための実務書：本書は、免震建築の更なる技術向上と発展を促進するために、特に建築設計者（建築家・意匠設計者）への参考資料を提供することを目的として編纂されたものである。「建築への多様な要求や複雑な課題を免震建築がどのように解決したか」「免震建築設計の勘所は何か」「免震建築を解剖することでより身近な存在に」「蓄積された免震技術を共有する」など、時代の背景を読み取り、編集のテーマとして掲げた。事業を企画する建築主や諸官庁はもとより、自然災害が多発する日本の経済、文化、医療、福祉、生産、物流、学術その他それぞれの守備範囲において、今後も必ず繰り返される大地震への備えとして免震建築の採用を検討する際の障害を取り除くことが本書の目的であり、「震災の国への処方箋」をタイトルとした。新たな時代「令和」を迎え、貴重な社会資本を守るための、そして免震建築への道を照らすための処方箋として、活用されたい。

目次

はじめに

1 免震建築の計画

1.1 免震建築の世界

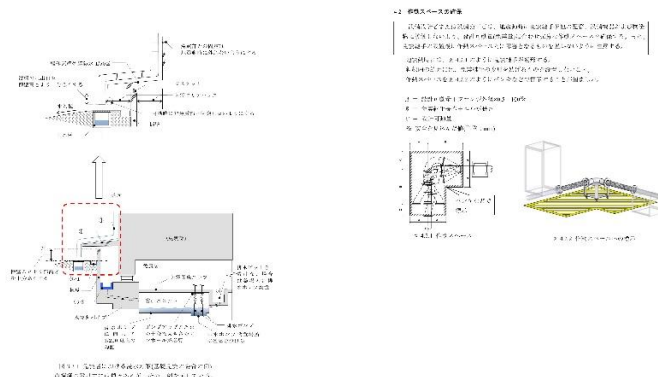
1.1.1 免震構造の知識

1.1.2 免震建築トリビア

- 1.1.3 国内外の状況
- 1.1.4 免震建築で実現されるもの
- 1.2 計画上の留意点
 - 1.2.1 免震建築物の形態
 - 1.2.2 免震建築物の計画
 - 1.2.3 外構計画
 - 1.2.4 免震部材の交換
- 1.3 施工計画
 - 1.3.1 施工の流れ
 - 1.3.2 免震構造の仮設計画
 - 1.3.3 免震部材ベースプレート
- 1.4 維持管理
- 2 免震建築の実例「免震建築の設計」
 - 2.1 空間の自由度を高める
 - 2.2 平面構成の自由度を高める
 - 2.3 断面構成の自由度を高める
 - 2.4 多様な価値を守る
 - 2.5 歴史をつなぐ
 - 2.6 未利用空間の価値を発見する
- 3 免震建築の詳細図集

- 3.1 出入口・犬走
- 3.2 階段
- 3.3 エレベーター・機械式駐車
- 3.4 エキスパンションジョイント・手摺
- 3.5 外壁・鉛直クリアランス
- 3.6 建築設備
- 4 免震データバンク
 - 4.1 免震用語集
 - 4.2 免震建築物に関する法令など
 - 4.3 免震部材の解説
- 資料：免震製品紹介
- 免震支承
- 免震支承+ダンパー
- 免震用ダンパー
- 配管・可撓継手
- 免震エキスパンションジョイント
- ベースプレート
- 免震支承用耐火被覆材
- 変位記録装置

2. 免震建物の設備標準



免震建物の設計・施工に携わる意匠・構造・設備設計者および施工者を対象に、2001年に第1版が刊行されました。免震建物の設備にターゲットを絞り、より専門性を高めた「免震建物の設備標準」として改訂しました。

建物の長寿命化の他、施設の事業継続性が社会的に求められるなか、竣工後20～30年程度の免震建物は設備更新などの改修時期を迎えており、適正な改修による免震性能の確保が重要となってきています。

本改訂では設備に特化した建物の維持管理の留意点の取りまとめや、BIM(Building Information Modeling)を用いた取り組みなど建物の事業継続・維持管理にまで着目した新たな位置づけのガイ

ドブックとして取りまとめました。また、建物の損傷度と継続使用についてモニタリングを行う「構造ヘルスマニタリング」について記載を充実させました。

建物の機能的継続性を含めた長寿命化に際し、免震建物の設備に関するガイドラインとして設計に活用してください。

目次

- 第1章 総則
 - 1.1 適用範囲
 - 1.2 用語1
 - 1.3 準拠する基準など
- 第2章 目標性能
 - 2.1 目標性能の確保
 - 2.2 変位追従性能
 - 2.3 耐久性能
 - 2.4 目標性能の保持
- 第3章 免震層における設備設計上の留意点
 - 3.1 免震建物の設備計画
 - 3.1.1 耐震上の留意点
 - 3.1.2 免震層における設備計画
 - 3.2 建物と設備配管・電気配線との関係
 - 3.3 免震層の浸水対策
 - 3.4 BIMを用いた検討
- 第4章 免震継手
 - 4.1 免震継手の種別と適用範囲
 - 4.2 作動スペースの確保
 - 4.3 固定支持部の設計
 - 4.3.1 設備配管の固定
 - 4.3.2 固定架台の設計
 - 4.3.3 免震継手固定部の配管材検討
 - 4.4 使用材料
 - 4.4.1 材料
 - 4.4.2 防錆など
 - 4.5 製品検査
 - 4.6 性能評価方法
 - 4.7 維持管理における点検
 - 4.7.1 免震継手の耐久性
 - 4.7.2 維持管理における点検
 - 4.7.3 免震継手などの主な施工留意点
 - 4.7.4 免震部材の交換ルートを考慮した配管・配線
 - 4.7.5 BIMを活用したFMによる検討
- 第5章 その他設備の免震対応
 - 5.1 電気配管・ケーブル
 - 5.1.1 一般配線
 - 5.1.2 高圧配管など免震建物導入部の引込配線について
 - 5.1.3 特別高圧電線路について
 - 5.1.4 避雷針接地対応
 - 5.2 ガス設備配管
 - 5.2.1 ガス配管の免震処置
 - 5.2.2 設計・施工上の留意点
 - 5.3 ダクト設備
 - 5.3.1 排煙用ダクト
 - 5.3.2 空調・換気用ダクト他
 - 5.4 その他設備設計上の留意点
- 第6章 構造ヘルスマニタリング
 - 6.1 構造ヘルスマニタリング
 - 6.2 建物のヘルスマニタリング
- 第7章 エレベーターの免震対応
 - 7.1 免震建物とエレベーター設備の耐震性
 - 7.2 エレベーターの安全対策
 - 7.3 基礎免震建物でのピットの納まり
 - 7.4 中間層免震建物での昇降路内の納まり
- 付録 技術資料
 - 付.1 免震継手
 - 付.2 設備設計とディテール
 - 付.3 構造ヘルスマニタリング
 - 付.4 BIMアプリケーション